

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

和歌山市立広瀬小学校

調査内容

- (1) 実施日 平成26年4月22日(火) (2) 対象 第6学年 30人

教科調査結果の分析より

全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに「知識」に関する問題を主としたA問題と「活用」に関する問題を主としたB問題の2つがあります。A問題、B問題ともに、国語は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、算数は「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。

<国語科の傾向>

- 国語 A の問題、B の問題の両方で「話す・聞く能力」、「読む能力」については、良好な結果となっています。
- 「言語に関する知識・理解・技能」に関しては、問題の内容による差が見られました。例えば、漢字の読み書きは、良好でしたが、故事成語の正しい意味と使い方を選択することや、二文を一文にして表現することには課題が見られます。【課題1】
- 「書く力」に関しても良好な結果が得られています。自分の考えを書くことや、一定の立場に立って考えを書くことは、ほぼできています。しかし、指示通りに書くことや、条件にそって書くことには課題が見られます。例えば、『～たり、…たり』という表現を使って書き直す」という指示通りに解答できていない、「3つ選んで」という指示に対して1つあるいは2つしか選択していない、問題文の言葉を引用して書く指示や「」を使って引用して書く指示を守って答えていない等の誤答が見られました。

【課題2】

<算数科の傾向>

- 全般にわたり、良好な結果が得られています。
- 計算の仕方を考えることや計算に習熟し活用することはできていますが、計算の意味について理解することにはやや弱さが見られます。例えば、基の量と比べる量の関係について混乱している誤答が見られました。【課題3】
- 国語で見られた課題と同様に、指示に沿った解答ができていないことが目立ちました。計算の仕方を説明する問題で、「 $37 \times 3 = 111$ をもとにすると」という考えをうまく使えていない誤答が見られました。

全国学力・学習状況調査は、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子がわかります。

<質問紙調査の傾向>

- 『あてはまる・どちらかというにあてはまる』の回答が特に多く見られた項目「学校に行くのは楽しいと思いますか。」
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。」

○改善の余地があると思われる項目

「家で自分で計画をたてて勉強をしていますか。」

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。」

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。」

「5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。」

「5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」

【課題3】

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

【課題1】 解決のために

○子どもたちの言語感覚を養うために、機会を捉えて次のようなことに取り組み、語彙を増やしたり、言語感覚を養ったりすることに取り組みます。

- ・説明や報告をする場合に、ことわざや慣用句、故事成語を使う条件を付けて話す。
- ・新聞の記事や物語、日記等を書く場合にも意図的に使うようにして書かせる。
- ・本や文章に使われていることわざや慣用句、故事成語について、国語辞典などを使って調べる。

○昨年度、課題として把握していた「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。」に対しては、継続的な読書の機会の設定や児童の委員会活動の充実、PTAの読み聞かせの取組等により、改善の傾向にあります。今後も取組を継続するとともに、図書室の蔵書の整理や整備を進め、子どもたちが様々な言葉に豊かにふれる機会を設けていきます。

【課題2】 解決のために

○「読む能力」「話す・聞く能力」の長所を保ちながら、設問を的確に読む力や条件に沿って表現する力を高めていく必要があります。一定のまとまりのある文章を書くためにも、設定された条件の中で書いたり、引用を用いて書いたりする学習の機会を設けていきます。

【課題3】 解決のために

○全国の課題と同様ですが、数学的な考え方を深める取組が必要です。実感を伴った数量の理解や計算の意味を考えることについては、課題があると考えています。自分の考えをノートにじっくりとかかせたり、友達と考えを出し合わせたりしながら、課題を解決する過程を大切に授業づくりに取り組みます。また、授業のはじめに目標を示したり、最後に学習の振り返りを行ったりすることは、教員の共通理解のもとに以前から実施しているところでしたが、子どもたちの意識としては反映されていない状況にあることが分かりました。今後も、様々な手法で、子どもたちが学習の流れをつかみ、確かに学ぶことのできる、よりよい授業を目指して取り組みます。